

トビウオ通信 (H25 第 2 号)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

《平成 24 年漁期前半の底びき網漁業の動向》

小型底びき網漁業 (かけまわし)

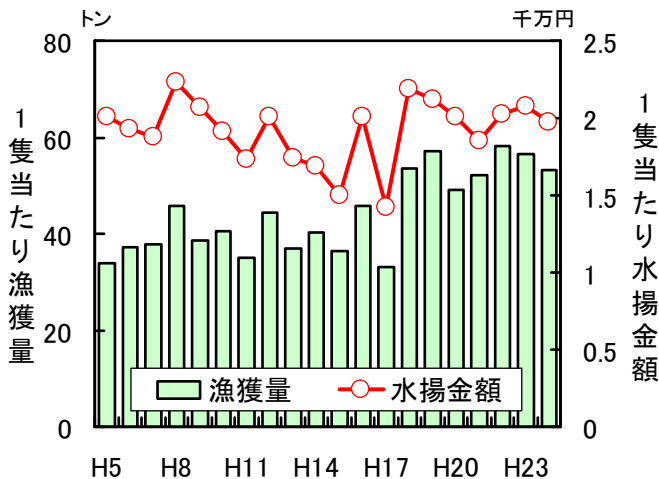


図1 小型底びき網漁業における1隻当たり漁獲量・水揚金額の動向(9~12月)

1 隻当たり漁獲量・金額とも平年を上回る

島根県の小型底びき網漁業(かけまわし)49隻*の平成24年漁期前半(平成24年9月1日~12月29日)の総漁獲量は2,606トン、総水揚金額は9億6,660万円でした。1隻当たり漁獲量は53トン、水揚げ金額は1,973万円で、平年を漁獲量では10%、水揚げ金額では4%上回りました(図1)。11月以降、寒気の影響で時化の日が多く、操業に影響がでましたが、比較的好調に推移しました。

* 当漁業における島根県全体の操業隻数は50隻ですが、統計は49隻分の集計です。平年は過去10年平均。

ソウハチ 前年下回る

主要魚種であるソウハチの1隻当たり漁獲量は7.5トンで、前年を下回りましたが、平年の1.4倍の水揚げがありました。ムシガレイの1隻当たり漁獲量は1.9トンで、平年の8割の水揚げに留まりました。また、メタガレイの1隻当たり漁獲量は0.3トンで平年の4割、ヤナギムシガレイの1隻当たり漁獲量は0.4トンで平年の8割の水揚げに留まりました。ソウハチは比較的好調に推移しましたが、他の3種は平年を下回り、低調に推移しました。

ケンサキイカ 前年下回る

ケンサキイカは9、10月に量がまとまり、1隻当たり漁獲量は4.4トンで、前年を下回ったものの、平年の1.6倍の漁獲がありました。また、ヤリイカの1隻当たり漁獲量は1.3トンで、平年の1.4倍の水揚げがありました。

キダイ・アカムツ 前年上回る

キダイの1隻当たり漁獲量は6.1トンで、前年の1.7倍、平年の1.2倍の水揚げがあり、好調に推移しました。アカムツの1隻当たり漁獲量は2.5トンで、前年の1.5倍、平年の1.7倍の水揚げがありました。一方、アンコウの1隻当たり漁獲量は3.8トン、ニギスの1隻当たり漁獲量は4.5トンで、平年の7~9割の水揚げに留まりました。

アナゴ類 過去最高!

このほか、アナゴ類(2.6トン/隻)、カワハギ類(1.7トン/隻)、ヒラメ(0.5トン/隻)は好調に推移し、平年の1.1~1.8倍の水揚げがあり、アナゴ類は平成5年以降最高の水揚げとなりました。

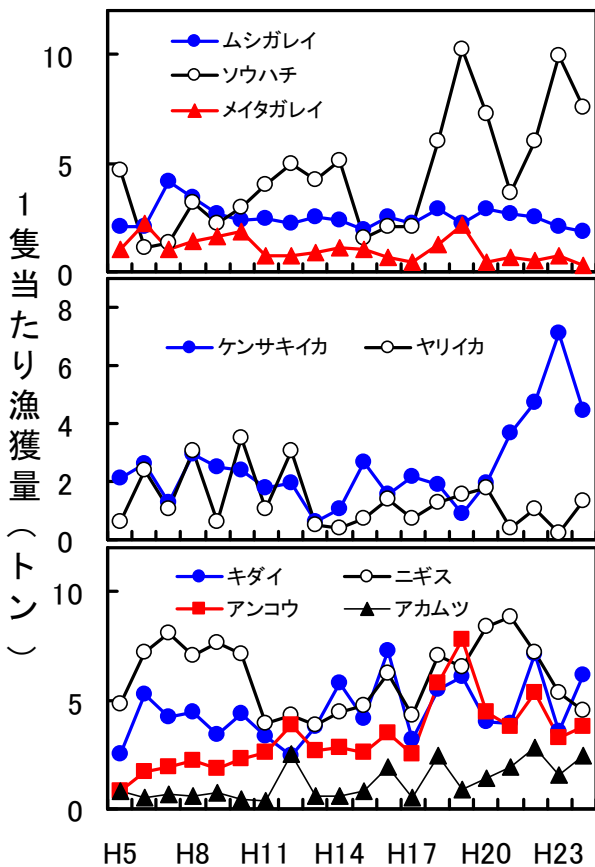


図2 小型底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向(9~12月)

沖合底びき網漁業 (2 そうびき) (県西部)

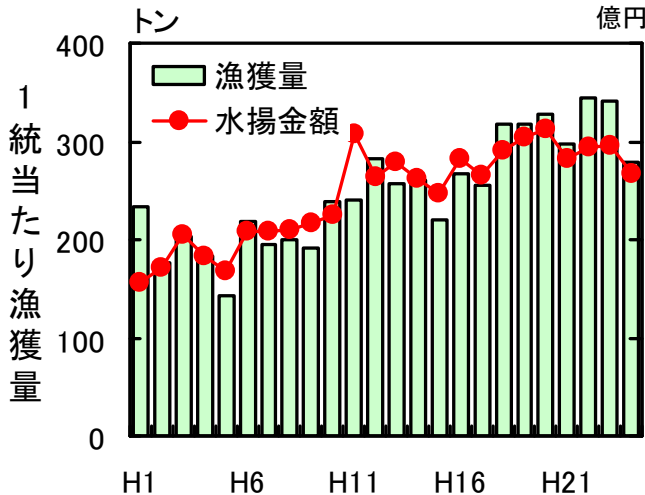


図3 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における
1統当たり漁獲量と水揚金額の動向(8~12月)

1統当たり漁獲量・金額は平年を下回る

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業(5ヶ統)の平成24年漁期前半(平成24年8月16日~12月29日)の総漁獲量は1,395トン、総水揚金額は6億6,901万円でした。1統あたりでは、漁獲量279トン、水揚げ金額1億3,380万円で、量は前年の8割、金額では前年の9割の水揚げに留まりました(前年341トン、1億4,774万円)。また、量・金額ともに平年(過去10年平均295トン、1億4,174万円)を5%下回りました。

今期前半は台風の接近およびエチゼンクラゲの入網により、操業に多少の影響がありましたが、概ね順調な操業となりました。

今期よりリシップ工事を終えた1ヶ統が付加価値向上を目的とした冷海水装置および魚倉冷

却装置を新たに導入し、漁獲物の高鮮度保持による魚価向上を目指した取り組みを始めました。今後の成果に期待したいところです。

カレイ類 全般的に低調

主要魚種であるムシガレイの1統当たり漁獲量は35トンで、平年の6割、ヤナギムシガレイの1統当たり漁獲量は5トンで平年の4割の水揚げに留まりました。一方、ソウハチの1統当たり漁獲量は20トンで、前年をわずかに下回りましたが、平年の1.3倍の水揚げがありました。ムシガレイは期間を通して低調に推移しましたが、ソウハチは小型サイズを主体に10,11月にまとまった漁獲がありました。

ケンサキイカ 前年下回る

ケンサキイカの1統当たり漁獲量は33トンで、前年の6割の水揚げに留まりましたが、平年の1.2倍の水揚げとなりました。また、ヤリイカは1統当たり漁獲量が2.3トンで、平年をやや上回りました。12月には久しぶりに100箱/統・航海を上回る水揚げが数回見られました。

キダイ・アナゴ類 好調!

キダイの1統当たり漁獲量は32トンで、平年の1.4倍となり、過去最高であったH22年に次ぐ水揚げとなりました。大きさに関係なく、期間を通して安定した水揚げがありました。アカムツの1統当たり漁獲量は12トンで、前年の1.4倍、平年の1.5倍の水揚げとなりました。今期は小型サイズを主体に好調に推移し、H12、18年に次ぐ水揚げとなりました。また、アナゴ類の1統当たり漁獲量は26トンで、前年を下回りましたが、平年の1.3倍の水揚げとなりました。一方、アンコウの1統当たり漁獲量は12トンで、前年の4割、平年の5割の水揚げに留まりました。ニギスの1統当たり漁獲量は11トンで、平年の9割の漁獲に留まりました。

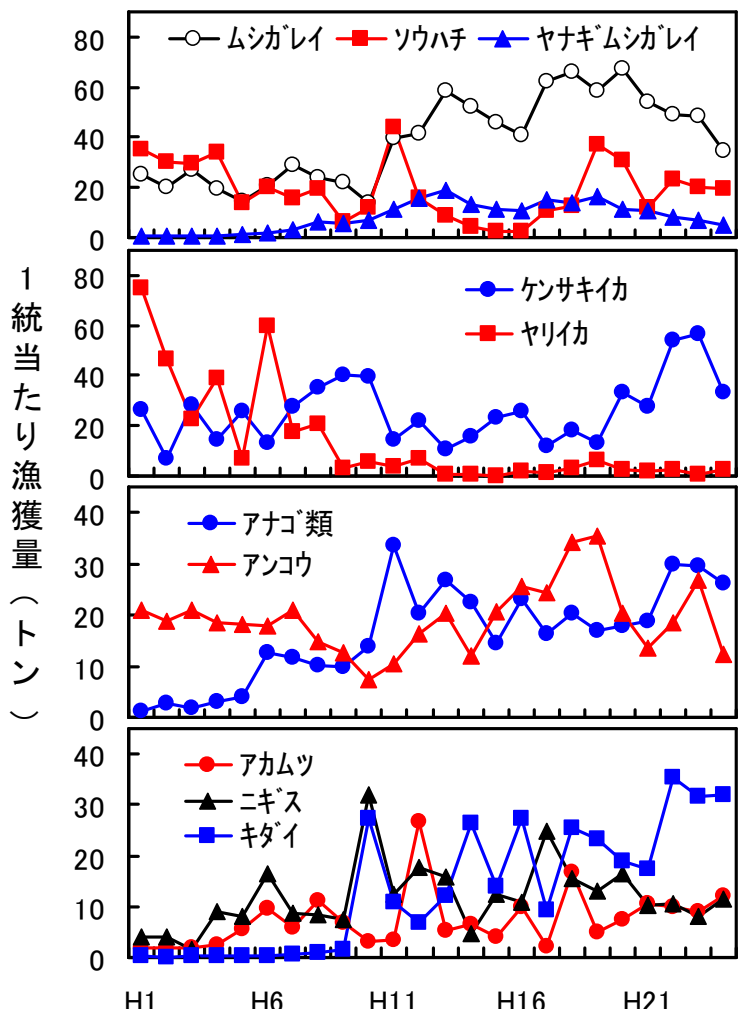


図4 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における
主要魚種の漁獲動向(8~12月)